

2020年2月21日



一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

## 2020年1月 マンスリーレポート

集計企業数 55 社

## ①売上高・前年同月比

	全店			既存店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	57,283,038 万円	100.0%	100.1% (100.4%)	54,372,374 万円	98.5% (99.0%)
食 料 品	48,723,693 万円	85.1% (85.1%)	100.5% (101.1%)	46,451,343 万円	98.9% (99.6%)
農 産	7,173,210 万円	12.5% (12.1%)	98.6% (102.4%)	6,911,882 万円	97.1% (100.9%)
水 産	4,813,900 万円	8.4% (9.0%)	101.1% (101.0%)	4,639,158 万円	99.3% (99.4%)
畜 産	6,428,168 万円	11.2% (10.9%)	100.9% (101.0%)	6,174,795 万円	99.1% (99.4%)
惣 菜	5,948,529 万円	10.4% (10.2%)	102.6% (102.9%)	5,705,752 万円	100.8% (101.1%)
日配食品	10,782,381 万円	18.8% (18.3%)	100.8% (101.4%)	9,922,122 万円	99.3% (99.9%)
加工食品	13,577,505 万円	23.7% (24.5%)	99.9% (99.5%)	13,097,635 万円	98.7% (98.5%)
生活関連	3,523,686 万円	6.2% (6.2%)	99.6% (97.8%)	3,375,040 万円	97.1% (95.5%)
衣 料 品	1,558,681 万円	2.7% (2.6%)	91.0% (91.9%)	1,464,105 万円	90.6% (91.6%)
そ の 他	3,476,978 万円	6.1% (6.1%)	100.3% (97.9%)	3,081,885 万円	97.8% (96.3%)

## ② 数 値

全店総売上高	57,283,038 万円	店舗数	4,874 店舗
総売場面積	9,762,024.6 m <sup>2</sup>	総従業員数	263,374 人

店舗平均月商	11,752.8 万円	平均客単価 (前年同月比)	1,953.3円 (100.3%)
月間m <sup>2</sup> 売上(前月)	5.9 万円 (7.0万円)	平均店舗面積	2,002.9 m <sup>2</sup>
月間坪売上(前月)	19.4 万円 (23.1万円)	パート比率(前月)	78.0% (77.5%)

注) 総従業員数・・・パート・アルバイト数は、8時間換算しています

## 《 全体概況 》

- ・ 1月の天候について、気温は全国的にかなり高く、東日本と西日本では、1946年の統計開始以降1月として1位の高温であった。そのため、冬型の気圧配置は続かず、寒気の南下が弱くなり、日本海側を中心に降雪量は記録的に少なく、こちらも統計開始以降、最少を記録した
- ・ 生鮮の相場状況について、野菜は全体が相場安であった前年よりもさらに低く推移をした。果実は、育成の遅れによりイチゴの相場が高かった一方、輸入果実ではバナナの相場が低かった。水産物は、市場への入荷量が少なかった影響により、卸売価格は高値であった。畜産物は、和牛の相場が前年に比べ低く、豚肉がやや高値で推移をした
- ・ 前年同月と比較して、金曜日が1回多く火曜日が1回少ない曜日廻りであった

## 《 商品動向 》

### ○農産

- ・ 野菜は、気温が高かったため、サラダ関連が好調であった。一方で鍋物商材と菌茸類が不調であった
- ・ 前年の相場高からの反動により、「玉ネギ」を中心に土物が不調であった
- ・ 国産果実では、主力の「イチゴ」が供給不足により不振を極めたほか、「ミカン」が不調であった
- ・ 輸入果実では「バナナ」が好調であった

### ○水産

- ・ 「タラ」や「牡蠣」などの鍋物商材が、暖冬の影響により不調であった
- ・ 「ブリ」は好不調が分かれる結果であった
- ・ 「マグロ」を中心とした刺身やお造りが概ね好調であった一方、丸魚が不調であった

### ○畜産

- ・ 牛肉、豚肉ともに鍋物商材が、暖冬の影響により不調であった
- ・ 鶏肉、挽肉、加工肉は、全般的に好調であった

### ○惣菜

- ・ 気温が高かったため、冷惣菜が好調であった
- ・ 揚げ物商品における新商品やリニューアル品の取り組みが成果をあげた中で、春の食材を先取りした「タラの芽の天ぷら」や「筍の天ぷら」を好調とするコメントが見受けられた
- ・ 寿司類や米飯類は好不調が分かれる結果であった

## ○日配・加工食品

- ・ 和日配では、暖冬の影響により、「練り製品」や「水物」などの鍋物商材が不調であった
- ・ 洋日配では、「アイス」や「乳飲料」、「牛乳」が好調であった
- ・ 加工食品においても、暖冬の影響により、「鍋つゆ」を中心とした鍋物商材や、「スープ」などのホット商材が不調であった
- ・ 前年特需が見られた「漬物」や「納豆」、「魚缶詰」などは、反動による売上の減少がみられた
- ・ 酒類は、売上回復の兆候がみられない中、「RTD」は好調であったとのコメントが見受けられた

## ○「初売り」のセール内容および結果について

- ・ 初売りのセール内容については、「福袋」や「お楽しみ袋」の販売が多く、その他、「詰め放題」や「ご当地フェア」など催事性がある企画が多く見られ、売り上げ・集客ともに概ね好調であった。

## ○「恵方巻」の予約状況について

- ・ 恵方巻の予約状況について、食品ロス削減の取り組みとして、前年よりも予約販売を強化する企業が多く、限定商品や HALF セットを中心に予約件数は前年を超えるコメントが多かった。予約特典としては、「ポイント付与」が最も多く、そのほか「割引き」や「御祈祷」などの特典も見受けられた。

以上